長期被覆により摘採適期の拡大が図れるチャ品種「かなえまる」			
［要約］「かなえまる」は、「やぶきた」と摘採期がほぼ同時期の中生品種であり、多収で芽数が多く芽揃いが良い。また、一番茶に 18～20 日間被覆することで品質を維持しつつ 3～6 日間摘採適期を延長でき、被覆後も安定した収量が得られる。			
農業技術振興センター・茶業指導所		**［実施期間］** 平成 30 年度～令和４年度	
［部会］ 農産	**［分野］** 競争力の強化	**［予算区分］** 国庫	**［成果分類］** 普及

［背景・ねらい］

本県の茶栽培品種は中生品種である「やぶきた」が 81.7%を占めており、摘採期が集中するため刈り遅れによる品質低下が発生しやすい状況にある。この対応策として、摘採期の異なる品種の利用や被覆栽培によって摘採時期を調整することが考えられるが、中生品種と晩生品種の間に摘採適期を迎える優良品種がないことや、「やぶきた」を長期被覆すると樹勢が低下しやすく被覆適性が低い、といった問題がある。

そこで、被覆適性を持つ「かなえまる」について、一番茶期に長期被覆を行い収量、品質に与える影響を調査するとともに、摘採期の延長可能期間を検証した。

［成果の内容・特徴］

①「かなえまる」は、農研機構果樹茶業研究部門（金谷）において交配・選抜された品種で、樹姿がやや開張型、樹勢がやや強、芽揃いが良く、芽数が多い、本県での摘採期は「やぶきた」とほぼ同時期の中生品種である（表 1)。

②「かなえまる」は「やぶきた」よりも、一番茶の百芽重が大きく生葉収量が多い(表 2)。

③1.5 葉期から遮光率 85%の黒色被覆資材による直がけ被覆を行うことにより、摘採期が 15 日被覆で 0～2 日間、18 日被覆で 3～5 日間延長することができる(表 2)。

④「かなえまる」は、一番茶を長期被覆した後の二番茶、秋番茶においても「やぶきた」よりも生葉収量が多い。また、一番茶の被覆期間が 20 日以下であれば、被覆した翌年の一番茶（無被覆栽培）においても、被覆当年と同程度の生葉収量が得られる。しかし、25 日間以上被覆すると二番茶、秋番茶の収量が低下し、翌年の一番茶収量も被覆当年よりも減収する（図 1)。

⑤直掛け被覆した「かなえまる」の一番茶の荒茶品質は、「やぶきた」より総じて優れるが、21 日間以上被覆すると外観の品質低下が見られる(表 3)。

⑥以上のことから、「かなえまる」は長期被覆に適し、一番茶に 18～20 日間被覆することで、品質を維持しつつ露地栽培と比較して 3～6 日間摘採適期を遅らせ、中生品種と晩生品種の間に摘採することができる(図 2)。

［成果の活用面・留意点］

①摘採計画および茶工場稼働計画策定のための基礎資料として活用できる。

②「かなえまる」は赤焼病に対する抵抗性が弱いため、常発地では防除が必要である。

③生育特性については農研機構果樹茶業研究部門（枕崎）および茶業指導所（滋賀県）の茶樹を供試し、製茶品質については農研機構果樹茶業研究部門（枕崎）の茶樹を供試した試験成果である。

［具体的データ］

表1 「かなえまる」の定植8年目における摘採日、生葉収量および新芽数

品種名	一番茶 摘採日	一番茶 生葉収量 (kg/10a)	一番茶 新芽数 (本/㎡)	二番茶 摘採日	二番茶 生葉収量 (kg/10a)	二番茶 新芽数 (本/㎡)
かなえまる	5/7	442	1188	6/25	372	1525
やぶきた	5/7	281	738	6/29	220	763
さえみどり	5/9	219	750	7/2	238	675

1)試験場所:滋賀県農業技術振興センター茶業指導所.
2)2008年4月定植.
3)H27滋賀県系適試験成績より.

表2 一番茶を長期被覆した「かなえまる」の摘採日、生葉収量および百芽重

品種名	被覆期間	2021年 摘採日	2021年 生葉収量 (kg/10a)	2021年 百芽重[4] (g)	2022年 摘採日	2022年 生葉収量 (kg/10a)	2022年 百芽重[4] (g)
かなえまる	15日	4/13	680 a	78.3 a	4/15	549 d	62.7 c
	18日	4/16	822 a	85.3 a	4/18	674 b	89.5 b
	21日	4/19	772 a	89.4 a	4/21	833 a	110.7 a
	露地	4/13	817 a	85.2 a	4/13	612 c	55.6 c
やぶきた	15日	4/13	321 a	58.8 b	4/15	245 b	48.6 b
	18日	4/16	486 a	68.8 b	4/18	330 a	56.6 b
	21日	4/19	361 a	95.5 a	4/21	323 a	86.9 a
	露地	4/13	412 a	64.4 b	4/14	175 c	50.9 b

1)試験場所:鹿児島県枕崎市、農研機構果樹茶業研究部門枕崎茶業研究拠点.
2)「かなえまる」は1区8㎡(516cm×156cm)、「やぶきた」は1区4.5㎡(307cm×145cm)、2反復.
3)栽培方法は、一番茶期の1.5葉期から85%遮光黒色資材を用い直がけ被覆で行った.
4)百芽重は20×20cmの枠摘み調査(1区3反復)によるもの.
5)同一品種の同一アルファベット間は有意差が無いことを示す(REGWQ法, 5%).

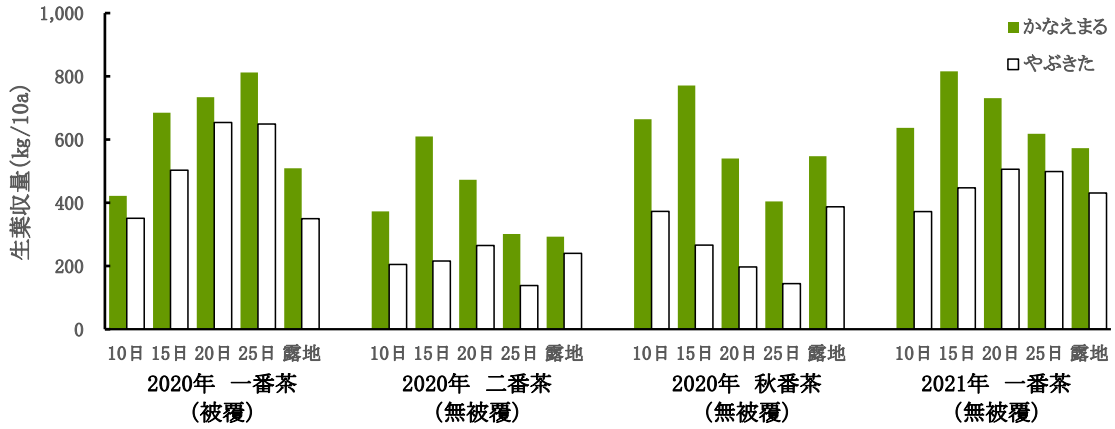

図1 長期被覆以後における生葉収量の推移

注1)試験場所:滋賀県農業技術振興センター茶業指導所.
注2)日数は2020年一番茶における被覆期間であり、2020年二番茶以降は無被覆.

表3 一番茶を長期被覆した「かなえまる」の製茶品質評価

品種名	被覆期間	外観 形状	外観 色沢	内質 香気	内質 水色	内質 滋味	合計
かなえまる	15日	8.5	7.8	7.0	8.0	8.0	39.3
	18日	7.0	8.0	7.5	8.3	8.8	39.5
	21日	5.5	6.8	7.3	8.3	8.8	36.5
	露地	7.8	6.3	5.5	7.3	7.8	34.5
やぶきた	15日	8.0	7.0	8.5	7.5	7.3	38.3
	18日	6.8	7.3	8.3	7.8	6.8	36.8
	21日	6.0	6.8	6.8	8.0	7.5	35.0
	露地	6.5	5.0	6.8	6.3	5.8	30.3

1)各項目10点満点 標準審査法(かぶせ茶)
2)2021年、2022年平均値

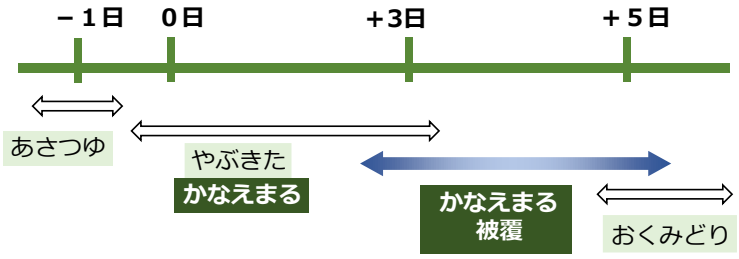

図2 チャ主要品種と18～20日間被覆した「かなえまる」の摘採期の分布

［その他］

・研究課題名
　大課題名：経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究
　中課題名：「滋賀の幸」ブランド力向上および消費拡大
　小課題名：競争的資金活用型試験研究事業（18065113 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成）

・研究担当者名：近藤知義（H30～R2)、忠谷浩司（H30～R3)、松本敏幸（H30、R4)、近藤拓也（R2～4)、今村嘉博（R3～4)

・その他特記事項：令和4年度茶研究会（2023/2/2)、平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業委託事業成果情報伝達会(2022/11/27、2023/2/18)で発表。